

## 2019年度 第25回ピア・スーパービジョン報告

### 1. 今回のテーマ

聖学院大学にて、第25回ピア・スーパービジョンが開催され、施設や病院等に勤務するソーシャルワーカーや当事者が参加した。

午前中の「ソーシャルワークにおける対等とはなにか？」という研究講演会のテーマを受けて、現場での気づきや当事者として感じていることについて深めた。

### 2. 参加の動機

現在私は、福祉施設のソーシャルワーカーとして働いている。日々、クライアントと関わる中で、疑問を抱えたまま業務に追われてしまい、整理することが少なかった。

そこで、ピア・スーパービジョンの存在を知り、数年前から参加するようになった。いざ参加してみると他の職場で働いている支援者も同じような悩みを抱えていることを知り、その場で共感することができた。また、先生方から話を聞くことで、ソーシャルワーカーとしての心構えを改めて考えさせられる機会となっている。

### 3. 「対等」についてそれぞれの想いを発信

今回のピア・スーパービジョンでは、柏木先生、相川先生の講演を通して「対等」というテーマについて、ワーカー、当事者それぞれの立場から議論を行った。

ワーカーは、これまでの経験を踏まえて、クライアントの限界を決めてしまい、操作していることはないだろうか。まずは、クライアントが「やってみよう」という想いを受け止めることが必要ではないかとの意見が出た。

まず「やってみよう」ことで、失敗やトラブルに発

展する可能性もある。しかし、当事者から「ワーカーが気持ちを受け止めてくれる」ことで、これまで以上に信頼できるようになったとの声があった。

ワーカーとクライアントが対等な関係をつくる一歩として、クライアントの想いを受け止める大切さを確認した。

さらに、信頼関係を築いていくためには、支援者自身がクライアントに対して自己開示を行い、一緒に変化しようとする必要があるのではないかと。時にはワーカーもクライアントと同じ生活者として、弱さを伝えても良いのではないかとの意見が出た。

ワーカーといった立場だけで関わるのではなく、支援する心は「常に普段着」の姿勢でクライアントと関わることで対等な関係性が生まれてくるのではないかと全員で共有することができた。

### 4. これからの支援の糧に

今回、ワーカー、当事者がまさに「対等」について語り合い、双方の想いを共有することができた。

支援は、片方からだけでは成立することなく、双方の合意によって成立する。また、合意に至るまでの過程もそれぞれの形があることを考えさせられた。

今後、支援困難な場面に遭遇した際は、クライアントと解決方法を考え、必要なことは尋ねることができるよう関係性を築いていく。そのような関係性の上に、ソーシャルワーカーとしての専門性をもって現場で実践していきたい。

(報告者：南里 祐介 [なんり・ゆうすけ])

(SW-net・聖学院大学人間福祉学部 人間福祉学科卒業)